

### 昭和天皇が行幸された由緒ある通り

昭和二十七年、南三十一條の六つの商店街が、地域の振興と商店街発展を目的に西屯田商店街連合会を設立しました。

毎年、北海道神宮の祭礼期、お盆、歳末の三回の大売出しを共催して、住民へのサービスと地域振興を図りました。特に、白鬚大明神(南八条西十一丁目)の祭礼に合わせた「連合大売出し」は、時代風俗行列なども行い、札幌名物の一つに数えられるほどでした。

西屯田通は、大正十一年七月に昭和天皇が摂政宮殿下の時に御通りになったことでも有名で、別名「御幸通」<sup>みゆきみち</sup>とも呼ばれています。現在、南三条西四丁目にある「御幸交番」は、かつて西屯田通にあり、それが名前の由来となりました。

昭和三十三年、茨城県から単身二十二歳で札幌に渡り、四十二年から、西屯田通で食料品の販売店や青果の卸売り業を営んできた箕輪持さん。「一代でここまでできたのは、努力や運もあつたけど、やっぱりお客さんのおかげですよ」と語ります。

箕輪さんは、地元出身者ではありませんが、この通りを愛し、誇りに思う気持ちはだれよりも強く持つていると自負しています。

「西屯田地区は、多くの著名人の故郷なんです。政治家や文学者、さらには社会福祉

などさまざまな分野で活躍した人々をたくさん輩出しています。札幌市の高田元市長や原田元市長もこの街で育ちました」

箕輪さんが副会長を務める西屯田商店街連合会は、六つの商店街で構成され、昭和五十年代後半には、約二百もの店舗がひしめき、多くの買い物客でにぎわいました。しかし、大手スーパーの参入や社会経済の低迷などの原因で、現在では百八店舗まで減少してしまいました。

こうした中、店舗の減少に歯止めを掛け、同時に住民と商店街の親

りや北海道警察の音楽隊を招く一方、暴力団追放など地域環境の改善を進めようと、「社会を明るくする運動」も併せて実施し、住民と商店街のきずながより一層強くなりました。

昨年、商店街は設立五十周年を迎えました。この時は、商店街で買い物すると、抽選で商品が当たるスタンプラリーを行ったり、いつにも増して盛大な夏祭りを開いたり、地域が一体となって記念すべき年を祝いました。

今年三月には、商店街や街の歴史などを紹介した記念誌も発行する予定になっています。また、札幌市が実施している「商店街等トータルサポート事業」( )を導入するなど、商店街の活性化にもさらに力を注いでいます。

「より住み良い地域をつくるためには、何より商店街の活性化が必要

# 西屯田通

「今こそ、一丸となつて商店街の活性化を目指します」



西屯田商店街連合会 箕輪持副会長

くを深めようと、以前より西屯田通では魅力ある街づくりに積極的に取り組んできました。五十九年から、毎年七月の最終日曜日に夏祭りを開催しています。平成七八年には、YOSAKOIソーラン踊



昨年行われた商店街設立50周年記念の夏祭り



西屯田商店街スタンプラリー

です。不景気の今こそ、みんなが一丸となつて商店街の活性化に向けて頑張らなくてはいいけません」と言う箕輪さん。西屯田通は、「御幸通」という別名の通り、必ず幸せのあふれる通りになりますよ」と力強く語っていました。

※商店街等トータルサポート事業・・・商業者が行う活性化のための取り組みや魅力ある商店街づくりの支援を行うもの